

社会科学学習指導案

令和3年2月3日(水) 3校時

授業学級: 6年1組(男子16(2)名、女子18(2)名、計34(4)名)

授業者: 小松 正

- 1 単元名 「世界の未来と日本の役割」
- 2 主眼 持続可能な開発目標(SDGs)の中の、海洋を守るための世界や日本の取り組みを学習した子どもたちが、現在のマイクロプラスチックによる海洋汚染の実態を知り、原因となっているもののうち自分たちの身近なものに着目しそれらを減らすにはどうしたらよいかを考えることを通して、プラスチックゴミを減らすために自分たちにもできることを考えることができる。
- 3 本時の位置(全6時中の第3時)
 - 前時: 持続可能な開発目標(SDGs)の中の、海洋を守るための世界や日本の取り組みを学習した。(SDGs、計画的な漁獲、漁礁の整備、さいばい漁業、森林整備など)
 - 次時: 自分たちにもできる取り組みについて発表し合う。
- 4 指導上の留意点
 - ・具体的な行動を考えられるように支援する。
- 5 展開

議題	学習活動	予想される児童の姿	教師の支援・評価	時間
問題把握	1 学習問題をつかむ。 ・動画を見る	<ul style="list-style-type: none"> ・プラスチックってそんなに作られているんだ。 ・マイクロプラスチックっていうんだ。 ・そんなに多くのマイクロプラスチックが海の中にあるなんて。 ・レジ袋やペットボトルも原因なんだ。 ・魚が飲み込んでしまう。それを人間が食べてしまう。 ・このままじゃ海洋環境は持続できないぞ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">【学習問題】海洋を守るために自分たちにもできることはないだろうか。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・マイクロプラスチックによる海洋汚染の動画を提示。 ・何が問題なのかを問う。 <ul style="list-style-type: none"> ・「マイクロプラスチックとは」の資料を配り、要点をおさえる。 ・資料3のマイクロプラスチックの原因となるもののうち身近な物に着目するように指示する。 ・ワークシートを配る。 	20
問題の究明	2 学習課題をおさえる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">【学習課題】プラスチックゴミを減らすために自分たちにもできることを考えよう。</div>		
	3 資料をもとに自分たちにもできそうなことを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・なるべくプラスチック製品を買わないようにする。 ・詰め替え可能な製品を買う。 ・ペットボトルを減らす。(→マイボトル) ・使い捨てのもの(紙コップ、ラップ等)をあまり使わないようにする。 ・プラスチックストローは使わないようにする。 ・プラスチックのスプーンやフォークは使わない。(→マイはし) ・レジ袋も使わないようにする。(→マイバッグ) ・川は海に注ぐから川をきれいにする必要がありと思う。川を汚さないようにする。(ポイ捨てはしない、川原のゴミ拾いをする) ・森林を大切に→水を蓄える→きれいな水・養分を多く含んだ水(地下水、川)→海へ→豊かな水が魚たちを育むから山にもゴミを捨てないことが大事だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ具体的に考えるように助言する。(単に「使わない」「減らす」だけでなくその代替りの対策まで考える) ・どうしてそのように考えたのか根拠をはっきりするように支援する。 	20
	4 考えたことを出し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・減らしたり、使わないようにしたりできない物だつてあるんじゃない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数人に考えたことを出してもらおう。(そのように考えた根拠を問う。) 	
整理発展	5 本時をふり返る。(ワークシート)	<ul style="list-style-type: none"> ・マイクロプラスチックによる海洋汚染は深刻な問題だと思いました。 ・減らせない物や使わざるをえない物はどうしたらいいのかなと思いました。 ・自分たちにもできることは結構ありそうです。 ・自分たちにもできそうなことをもっと考えてみたいです。 ・自分たちにもできることを実践していきたいです。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">評価:プラスチックゴミを減らすために自分たちにもできそうなことを考えられたか。(ワークシート、発言)</div> <ul style="list-style-type: none"> ・次回は発表し合うことを伝える。 	5

6 児童のワークシートより

★プラスチックゴミを減らすために自分たちにできること**<捨てない、拾う>**

- ポイ捨てをしない。 ○海や砂浜で飲食をしない。 ○家族や友達と遊んだ後はゴミがないかしっかり確認してから帰る。
- ゴミをきちんと拾う。 ○海はないけど公園でゴミ拾いをする。

<ペットボトルについて>

- ペットボトルは飲み終わっても捨てずに洗って繰り返し使う。家でお茶を作って洗ったペットボトルに入れている。
- 出かけたりする時は自動販売機をできるだけ使わず水筒に入れて持って行く。 ○マイボトルを持っていく。
- ペットボトルでなく缶にする。

<レジ袋について>

- エコバッグ（マイバッグ）を持って行く。カゴを持って行く。紙袋を使う。
- レジ袋はすぐ捨てずにまた使えるようにたたんで再利用する。（ゴミ入れ、物入れ）

<衣類について>

- 衣類はおさがりとして他の人に譲ったり、油を拭くものを作ったりすればいいと思う。
- 衣類はバザーや中古買取に出したり困っている人たちに寄付したりする。

<その他の製品について>

- すぐに捨てずに、何か使いみちを考えて使う。 ○ペンを使うのは少なくして鉛筆等を使うようにする。
- 牛乳パックや紙コップは切ったりしてペン立てなどを作って使えばいい。
- 紙ストローを使う。ストローは使わずに飲む。 ○卵パックはゼリーの型として使う。
- ボールペンはインクだけ替えて繰り返し使う。 ○ラップや紙コップは必要な分だけ使う。
- プラスチックは外に置かないようにする。（早く劣化してマイクロプラスチックになるから）

<買う時のこと>

- 買い物の時に後のことを考えて本当に必要かを考えて買う。 ○使い捨ての物ではなく継続的に使える物を買う。
- あまりプラスチックが使われている物を買わない。（プラスチックは最終的に海に行き、それは魚を介して人間に返ってくるということをもっと広く知ってもらおう）
- シャンプーやリンスは詰め替え用を買う。
- 食品トレイはこまごま買わないで一つにたくさん入っているものを買う。
- ラップはシリコン製の何度も使用できるものを使って、使い捨てをできないようにする。
- レジでスプーンをもらわないようにする。

《課題と思うこと》

- 食品トレイやペットボトルは減らす方法は見つからない。
（どちらも生活に必要な食べ物や飲み物が入っているので、買わなければいけないと思うから）
- 食品トレイについては減らすのは難しいと思う。
（魚や肉などを入れたりするのに、紙だと臭いがついたり型が変わってしまったりして代用品がないから）
- 衣類は難しいと思う。（日常生活に欠かせない物だから）
- 食品トレイや衣類は本当に必要な物だと思うから、作っている人たちがプラスチックを使わずに作らないと解決は難しいと思う。
- 文具のキャップは使っているうちに割れてきてしまうのでできることはない。
- ラップは無理だと思う。（いろんな物に使われているから）
- 紙パックはあまり減らせない。（コーヒーが好きでよく使うから）

7 成果と課題

(1) 成果

★児童の本時のふり振り返り

- ・ 海にこんなにプラスチックが流れていることを改めて知りました。便利なプラスチックが魚にとっては害になっていることを知りました。思っている以上の量のプラスチックが海に捨てられていることを知り驚きました。
- ・ 毎日何も考えずに使っているものが本当は危険だと知って、怖いと思いました。
- ・ 身近にあるものでこんなにも危険なことが起きてびっくりしました。一つの命でも助けてあげたいです。
- ・ プラスチックを減らさないといけないことが分かりました。でもよく考えると、実際には便利で代用品がないものなど課題があることを知りました。
- ・ プラスチックはどれも生活に必要な物ばかりで、どうすれば減らせるのか、方法があまり見つからなかったけど、他にも方法があるのか考えていきたい。
- ・ 改めて考えてみると、ストローや文具を減らすにはどうすればいいか考えるのが分からなくなったけど、簡単に考えられることもありました。
- ・ むだな物やいらぬ物を買ったり、よけいに使ったりしないでいこうと思いました。
- ・ 自分たちにできることは、よく考えればたくさんありました。そしてこれを実際にやりたいです。
- ・ ぼくは釣りが大好きです。だから魚のために海の生き物のためにこの問題について詳しく学んで、いつまでも生き物がたくさんいる世界を目指していきたいです。

- ・ 普段の生活の中で何気なく使っているプラスチックが原因となって引き起こされている海洋プラスチック問題に多くの児童が関心を持ち、真剣に向き合うことができた。問題提起として扱った動画は海洋プラスチック問題が端的に解説されていて分かりやすい上にインパクトがあつてとてもよかった。このまま何もしなかったら大変なことになってしまうと感じた子どもたちは、自分たちにもできることは何かを考える必然性をもって学習することができた。
- ・ マイバッグやマイボトルなど、既に自分の家でやっている児童にとっても、そうすることが海を守ることにつながる重要な事なんだということを改めて認識できたようだった。また、プラスチック製品の中でも子どもたちにとって身近なプラスチック製品に絞って考えたことで、プラスチック製品を減らすためのより具体的な対策方法がたくさん出ることにつながったように思う。
- ・ 次時の最後に学習のまとめとして書いた感想では、多くの児童が次のような感想をもつことができた。「なくす」ことは無理だが「減らす」ことは自分たちでもできることはいろいろある。この海洋プラスチック問題のことをもっと多くの人に知ってもらふ必要がある。一人一人ができることを今日から実践する。

(2) 課題

- ・ 今回、コロナ禍での学習で、実際にはグループ討議が実施できなかった。従って次時は、教師が全員の考えを集約したプリントをもとに全体で共有し合った。それぞれが考えたことをお互いに出し合い意見交換できれば更に主体的な学びが期待できるのではないかと思う。また、マイクロプラスチックについて自分たちで調べる時間が確保できるとよかったかと思う。